



# 美術教育支援協会

発行・編集／事務局 〒167-0051 東京都杉並区荻窪 4-20-11 電話：03-3398-9155 FAX: 03-3398-9158  
e-mail: info@npoaes.org HP: npoaes.org

現在会員数:100名(協賛5社)含)



## ◆ 理事長あいさつ

谷岡 清

4月半ばに、オランダ・ベルギーの旅をしてきました。近年、この土曜フォーラムをはじめ、自治体や成人大学の依頼で美術講演をする機会が多いので、毎年、最新の美術館情報を取材するために海外へ出ていますが、今回は状況が違っていました。

直前の3月22日、ベルギーの首都ブリュッセルの空港と地下鉄マルベーク駅で連続爆破テロがあり、多くの死傷者が出たからです。一時ベルギーには最高レベルの警報が出され、最も危険な地域とされていました。私がこの旅行に参加申し込みをしたのが2月、その後にテロが起こったわけで、いずれ旅行社から催行中止の通知が来ると思っていたのですが、一向に知らせがなく、問い合わせたところ、外務省の海外安全情報では、まだ危険警報が出ていないため、規定通り催行の予定とのことでした。「行くべきか、行かざるべきか」、大いに悩みましたが、その後逮捕者が出るなどで、ブリュッセルの警戒レベルも下がり、ついに決行となりました。

当日成田に着いてみると、最初は24~5名いたようですが、結局残った命知らず?の参加者は6名だけ。アムステルダム空港に出迎えてくれたのは、40人くらい乗れる大型バスでした。それに、驚いたのは、現地の警備態勢がいつもとほとんど変わらず、警官の姿も全くありませんでした。それからは、まさに旅行者天国、チューリップは満開、空は快晴、美術館も観光地もガラ空きで、ガイドの「こんな空いているのは珍しい」の言葉通り、快適な旅となりました。東京で2時間も待たされてお会いしたフェルメールの「真珠の耳飾りの少女」は、広い部屋で独り占め。久しぶりの再会を喜びましたが、振り向いてはくれたものの、残念ながら、私のことはよく覚えていないような眼差しでした。写真もしっかり撮れたこの旅の成果は、今秋の土曜フォーラムでたっぷりご覧いただく予定です。

旅の間中、考えていました。人の頭越しでなくゆっくり鑑賞できるのは最高だが、ガヤガヤと皆で賑やかに見るのも、やはり平和でいいな、と。



マウリッツハイツ美術館

## ◆ 2016年夏の土曜フォーラム企画『美術館日帰りツアー』は箱根方面に！

### NPO 法人美術教育支援協会のバス日帰りツアー そのIV

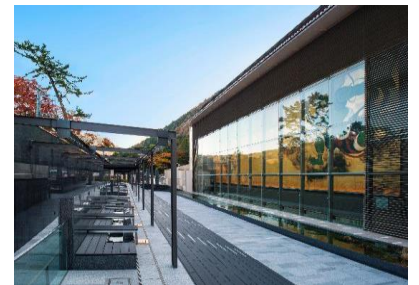
#### 理事長 谷岡 清と行く箱根「岡田美術館」と「ガラスの森美術館」

NPO 法人美術教育支援協会理事長谷岡の同行・解説、貸切バスで巡ります。これは、昨年は箱根大涌谷の小噴火などで、危険度が増して中止となりましたコースの再企画です。

小涌谷温泉に2013年秋開館した「岡田美術館」には、日本・中国・韓国の古代から現代までの名品が収蔵されています。

仙石原の「箱根ガラスの森美術館」はヴェネチアン・グラス専門美術館。

15~18世紀の欧州貴族を熱狂させ、卓越した技を尽くした美の極み、繊細優美の輝きのヴェネチアン・グラスを楽しめます。



### ■ 募集！7月6日(水)1 理事長・谷岡 清と行く美術館日帰りツアー 箱根「岡田美術館」「ガラスの森美術館」

参加費：会員 20,000円 / 既参加者・会員紹介 21,000円 / 一般 22,000円

(今回は各美術館でゆっくり鑑賞の時間を取ります)

6月13日(月)までに事務局にお申込みください。tel: 03-3398-9155 fax: 03-3398-9158

開催日 7月6日(水) ※最少催行人数 15名 ツアー確定は6月16日(木)までに参加申込者にご連絡します

8:30 新宿駅西口バス集合場所集合 ⇒ 神奈川県箱根町小涌谷「岡田美術館」 ⇒ 仙石原「ガラスの森美術館」  
(館内レストランにて昼食)・庭園散策 ⇒ 東名御殿場経由 ⇒ 新宿駅西口着 18:30 ごろ

## ◆ 今秋の土曜フォーラム企画 『世界の美術館の旅Ⅷ』 (プロジェクター投影と解説)

2016 年の「土曜フォーラム・世界の美術館Ⅷ」も内容充実 乞うご期待！ 講師＝谷岡 清

昨年の「土曜フォーラム」は、世界の美術館の第 7 弾で、多くの方々にご参加いただき、好評のうちに終了することが出来ました。今年のテーマを決めるため皆様のアンケートのご意見を拝見したところ、世界の美術館シリーズの継続を希望される方が多く、今年も選りすぐった美術館をご紹介しますことにしました。内容の充実した美術館ばかりです。ぜひお誘い合わせの上至宝の数々をお楽しみください。

●**予定期日：講演会場予約の関係で 2016 年 8 月ごろに決定します。**奮ってご参加ください。(10 月～11 月の 4 日間)  
(参加費)会員:2,500 円(@700)／以前参加・会員紹介 3,000 円(@800)／一般:3,500 円(@900)／いずれも 4 回分 (@)は 1 回分

### ◆第 1 回 (平成 28 年 10 月の土曜日) 14:00-16:30

『アムステルダム美術館』 <オランダ・アムステルダム>

16 世紀がイタリアの時代なら、17 世紀は阿蘭陀・フランドルの時代。レンブラント、フェルメール、ルーベンスと絵画史に燦然と輝く巨匠たちが輩出した。特にレンブラントは、一世を風靡、後の画家たちに多大な影響を与えた。美術館と邸宅を訪ね、偉大な足跡を追う。

レンブラント夜警  
(部分)



### ◆第 2 回 (平成 28 年 10 月の土曜日) 14:00-16:30

『イラクリオン美術館』 <ギリシャ・クレタ島>

ギリシャの古代文明はクレタ島のミノア文明に始まるクレタ島のミノア文明に始まる。その中心にあるクノッソス宮殿は、ラピンドロス(迷宮)とも呼ばれ、その構造は複雑怪奇。怪人ミノタウロスを閉じ込めた伝説がよく似合うが、この島に暮らした人々の性格は明るく陽気、楽しさ満載の発掘品を紹介。

クレタ地母神



### ◆第 3 回 (平成 28 年 10 月の土曜日) 14:00-16:30

『ゴッホ美術館』 <オランダ・アムステルダム他>

モネとともに、日本人に最も好まれる画家ゴッホ。千五、早い時期に開かれた「ゴッホ展」は、毎日長蛇の列が続いた。37 歳の若さで自ら生涯を閉じたゴッホだが、オランダからパリに出た初期の頃は、浮世絵に傾倒、日本美術を心から愛した。波乱の人生を作品でたどる。

ゴッホ 花魁



### ◆第 4 回 (平成 28 年 11 月の土曜日) 14:00-16:30

『マルモッタン(モネ)美術館』 <フランス・パリ>

パリの実業家マルモッタンが集めたコレクションに、世界最大のモネ・コレクションに、モネの主治医や次男ミシェルが集めた作品群が加わり、世界最大のモネ・コレクションを誇る美術館。特に有名な「印象・日の出」は「印象派」の名の由来となった作品。睡蓮の連作で知られたモネの日本庭園も訪れる。



モネ 印象日の出

※今までのご出席者・会員の方々には日程が決まり次第ご案内書をお送りします。また、ホームページにアップいたします。

## ◆ 昨年 2015 年の土曜フォーラム活動報告

### ●熱海 MOA 美術館・伊豆ガラス工芸美術館・伊豆高原ステンドグラス美術館 日帰りバスツアーのご報告

2015 年 9 月 16 日(水)朝 参加者 18 名とスタッフ 4 名の 22 名が新宿西口に集合。

このツアーは最初箱根の小涌谷『岡田美術館』が予定されていて、参加人数も最少催行数を超えて、ツアーが成立したのに、ご存じのように箱根大涌谷の小噴火などがあって道路も一部通行止めになりました。

すぐに理事会を開催し、ツアーの中止決定と改めて代替え先を選択しました。その結果タイトルの 3 ヶ所に行く運びとなりました。

バスの中で谷岡理事長のレクチャーを受けながら、順調に海老名、小田原箱根道をすすみ、熱海へ。MOA 美術館は海を臨む高台の頂上に建っております。

光琳の国宝紅白梅図屏風筆頭に数々の絵を鑑賞しました。館内レストラン桃山にて昼食。

能楽堂などを見学して次の伊豆ガラス工芸美術館へ。ガラスのなどを鑑賞の後、少し小雨が降ってきましたが、伊豆高原ステンドグラス美術館へ。オルゴールとパイプオルガンの

重低音に酔いしれた後、バスは帰途につきました。少し遅れて新宿解散にて終了。

熱海 MOA 美術館前庭にて





◆秋の土曜フォーラム『世界の美術館の旅Ⅶ』の報告

例年のように下記テーマ、日程にて開催しました。4回の参加者は延べ181名で、谷岡講師の解説は全て頭の中に入っていて素晴らしく、また自ら撮影された写真に大感激でした。今回もアンケートへのご協力ありがとうございました。次回も世界の美術館シリーズへのリクエストが多く好評にて終了しました。



土曜フォーラム講演風景

- ・第1回 平成27年10月17日(土)『ウフィッツィ美術館』
- ・第2回 平成27年10月31日(土)『ヴァチカン美術館』
- ・第3回 平成27年11月7日(土)『エルミターージュ美術館』
- ・第4回 平成27年11月21日(土)『ブラド美術館』

於：杉並区・荻窪地域区民センター（東京都杉並区荻窪2-24-20）  
各日共：14時～16時半 講師・谷岡 清

◆ 2015年秋の土曜フォーラムに参加して

登坂 有子

土曜フォーラム ～世界の美術館を巡る楽しみ～

土曜フォーラムへの参加のきっかけは、2013年飛鳥Ⅱで航く世界一周クルーズ中のことでした。谷岡先生は横浜からケープタウンまで乗船され数回にわたって美術講演をされました。これから寄港する地の歴史をはじめ美術館と作品のお話を、よどみなく語られる興味深い内容で50分間はあっという間に過ぎてしまうのでした。講演会は乗船客を魅了し、回を重ねる毎に会場を狭くするほど盛況のうちに終了したのでした。そして、一緒に乗船されていた都内に住むAさんから、本フォーラムの存在を知ったのでしその後、受講できる機会に恵まれて、毎回うきうきする思いで参加しました。フォーラムでは自ら美術館を訪れ撮影されたすばらしい映像とともに、語られるお話に引き込まれ、まるでご美術館を一緒に鑑賞しているような錯覚に陥ってしまうのでした。2015年のクルーズでは不穏な中近東情勢から急遽航路が変更され、谷岡先生の行程もコーチンからリスボンまでと予定より長くなったのです。講演会の回数も増え、「美術おもしろ講座」として7回拝聴することができました。クノッソス宮殿と考古学博物館へのツアーに同行した乗船客は、博物館で展示品を前に、「あっ！これこれ、谷岡先生の話の中に出てきたわよね」と歓声をあげるのでした。土曜フォーラムは私にとつてとても贅沢な時間であり、これまでの「ただ見ること」から「観ること」へと成長できる時間でもあると思っています。

◆ ピアノコンサート報告 2015年12月5日(土) 杉並公会堂小ホール

◆2015年冬の土曜フォーラム12月5日(土)

下山静香さんと伊藤綾子さんのピアノコンサート 《印象派・パリがみた夢》報告

美術映像とピアノのコラボとしてお贈りしました。下山静香さんがピアノを弾き解説をしながら横のPCを操作して映像を解説し、その関連曲を弾くといった構成です。一部連弾で伊藤綾子さんが加わりました。105名ご来場

曲目抜粋：【テーマについて 演奏者：下山静香／伊藤綾子】

ショパン：ノクターン作品9-2/ドビッシェ：亜麻色の髪の乙女・ショーン：風景/  
サティ：ジムノペティ第1番 エンパイア劇場のプリマドンナ、ジュ・トゥ・ヴ/  
ドビッシェ：小組曲よりメヌエット/バレエ(4手連弾) (休憩)フォーレ：バヴァアース/  
武満徹：閉じた眼(CD)/ドビッシェ交響詩《海》より波のたわむれ 4手連弾/  
吉松隆：星降る夜の子守歌/ドビッシェ《映像》第1集より 水に映る影/  
ドビッシェ：喜びの島 など



◆ エッセイ 音楽と美術のコラボ 下山静香 (ピアニスト/日本スペインピアノ音楽学会理事)

ゴヤへの強い想いから生まれた《ゴイエスカス》

スペインの画家といったら、皆さんは誰を思い浮かべますか？なにしろ個性的な芸術家がひしめくスペイン、20世紀ならピカソにミロにダリ、黄金世紀ならエル・グレコやベラスケスといった名前が、すぐに出てくることでしょう。そして18世紀を代表する画家といえ、なんといってもフランシスコ・デ・ゴヤ(1746-1828)ではないでしょうか。

ゴヤは、しばしば時代をあらわす「記号」として機能するほどのインパクトをもつ画家です。そんなゴヤの世界に惹かれて作品を創作した芸術家は多いのですが、音楽家として筆頭に挙がるのはエンリケ・グラナドスでしょう。グラナドスは今年没後100年を迎えているのですが、その最期も、実はゴヤと無関係ではないのです――。

グラナドスはスペイン(カタルーニャ地方)出身の作曲家で、優れたピアニスト、教育者でもありました。スペインならではの民俗のエッセンスと、ロマンティシズムが融合した彼の作品は、“スペイン”というとまずイメージされがちな激しさよりも、優美でノーブルな雰囲気をもたえています。実はそれも、れっきとした“スペイン”の一面なのです。そんな彼が晩年に心血を注いだ代表作が、6曲からなるピアノ組曲《ゴイエスカス ～恋するマホたち Goyescas ~ Los majos enamorados》。ゴイエスカとは、「ゴヤの」「ゴヤ風の」という意味で、その名の通りゴヤの世界に触発されて書かれた作品です。

「ゴヤの心とパレットに恋焦がれてしまった。彼の描くマハ、マホ、ゴヤ自身とアルバ公爵夫人、彼らのいさかや愛やレキエブロス、絹のレースと房のついた黒いビロードに映える白薔薇のような頬、しなやかな腰つき、真珠のような手、黒い髪に挿したジャスミンが僕を狂わせた・・・」グラナドスは、友人への手紙にこう書いています。これはまさに、ゴヤの世界に宛てた恋文といえるのではないでしょうか。この文面からは、「カラフルなゴヤ」がうかがえるのですが、組曲《ゴイエスカス》に関係する具体的な作品は、意外にも、暗くてシニカルな版画集《気まぐれ Los caprichos》にみることができます。



ゴヤ

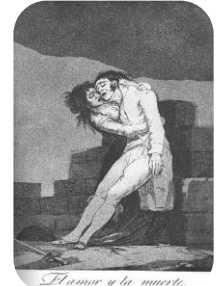
《気まぐれ》は、ゴヤが辛辣な批判眼をもって人間の欲や堕落、好色、暴力などを描き出した、80点からなる版画作品集です。グラナドスはその中から、第5番〈似た者同士 tal para cual〉を《ゴイエスカス》の初版楽譜の表紙に使用しました。そして、組曲の冒頭を飾る〈レキエブロス(愛の言葉)〉も、この版画からインスピレーションを受けたといわれていますが、それにはちょっと不思議な気がしてしまいます。というのも、この版画は、言い寄る男と、身を後ろに引いている女(と思いきや、その目はしたたかに男を品定め。・・・というわけで、「似た者同士」なのでしょう)、背後には遣り手婆が2人描かれていて、明らかに売春交渉の場面と思われるのですが、グラナドスの〈レキエブロス〉のまは、優雅で幸せな愛の気分にあふれた、皮肉のかけらも感じられない音楽だからなのです。タイトルになっている「レキエブロス」が意味するのは、恋人同士が交わす愛の言葉というよりも、男性がお気に入りの女性に投げかけるほめ言葉のようなものです。



似たもの同士

・聴いていると、それも「騎士道精神にも通じるスペインらしい習慣だなあ、女性に生まれてよかったかもなんて思えたりするのですが、ゴヤの〈似た者同士〉においては、なんのためのレキエブロスなのか・・・

言わずもがなですね。さて、《気まぐれ》からはもう一点、第10番の〈愛と死 El amor y la muerte〉が、《ゴイエスカス》中のクライマックスにあたる劇的な〈愛と死〉に靈感を与えています。グラナドスは、《ゴイエスカス》をピアノ曲として作曲したのちにオペラにも改作していて、この〈愛と死〉は、物語の終盤、決闘によって息絶えたマホ(フェルナンド)を、恋人であるマハ(ロサリオ)が胸にかき抱いて嘆き悲しむ場面が使われました。ゴヤの作品でも、まさにこのオペラのシーンと重なる場面が描かれています。1916年、グラナドスは、メトロポリタン歌劇場でのオペラ《ゴイエスカス》初演に立ち会うため、夫人を伴ってニューヨークに渡ります。時はおりしも第一次世界大戦のさなか。初演の成功を見届けた2人は、子供たちの待つバルセロナに早く戻ろうと郵便船サセックス号の券を手配したのですが、英仏海峡でドイツ軍Uボートによる無差別魚雷攻撃を受け、無念にも海に沈むという最期を遂げてしまうのでした。オペラ《ゴイエスカス》の悲劇的な結末が、こんな運命を呼び寄せてしまったのでしょうか・・・。グラナドス死す、の第一報がもたらされたとき、バルセロナのカタルーニャ音楽堂ではまさに、ルービンシュタインが《ゴイエスカス》のなかでも特に美しい〈マハと夜鳴きうぐいす〉を演奏しているところだったそうです。



愛と死

50歳の誕生日を迎えずしてこの世を去ったグラナドス。もっと長く生きていたら、彼の「ゴヤの世界」への想いはさらなる傑作を生んだかもしれませぬ。それはもはややかなわないとしても、《ゴイエスカス》は、近代ピアノ音楽の金字塔として燦然と輝いています。そんな作品を遺してくれたことに感謝して、これからも大事に演奏していきたいとあらためて思う、メモリアル・イヤーなのでした。

下山 静香 (ピアニスト/日本スペインピアノ音楽学会理事)

## ◆ 2015年度事業報告 2015 (H27) .4.1 ~ 2016 (H28) .3.31

2015/4/1 新年度第9期スタート  
 4/6 第9期第1回理事会「下山静香ピアノコンサート」開催について《印象派・パリがみた夢》打ち合わせ  
 6/1 会報 (Vol.7) 発行発送  
 6/9 第二回理事会 秋の土曜フォーラム等の打ち合わせ  
 7/9 箱根岡田美術館日帰りツアー中止・第3回理事会  
 9/4 第4回理事会  
 10/11 秋の土曜フォーラム  
 10/17 土曜フォーラム①『ウフィツィ美術館』  
 10/31 土曜フォーラム②『ヴァチカン美術館』

11/7 土曜フォーラム③『エルミタージュ美術館』  
 11/21 土曜フォーラム④ブロード美術館  
 12/5(土)下山静香・伊藤綾子ピアノコンサート開催  
 於:杉並公会堂小ホール  
 12/18 第5回理事会 各フォーラム結果報告

## ◆ 事務局長より会費納入のお願いと あとがき



### 【第9・10期会費納入のお願い】

お蔭様で現在100名の会員(協賛会社含む)の方々がいっぱいます。つきましては次年度も変わらず会員継続をお願いしたいと存じます。お手数ですが9期の会費がまだの方(H27.4.1~H28.3.31)と新たに10期の会費((H28.4.1~H29.3.31)各期3,000円を下記へお振込みいただきますようお願いいたします。(H28.1.1以降ご加入の会員様は有効期間をH29.3.31としてお取り扱いいたします)

- 三菱東京UFJ銀行・荻窪支店:普通 179257 トクティエイカツウホウシンビジュツキョウイクシエンキョウカイ
- 三井住友銀行・荻窪支店:普通 0568070 トクティエイカツウホウシンビジュツキョウイクシエンキョウカイ
- 郵便振替 00140-2-318540 トクティエイカツウホウシンビジュツキョウイクシエンキョウカイ

### 【今年の会報 (Vol.8) お届けにあたって】

女流文学者の澤地久枝さんの言葉に次の一文があり、私の座右の銘とさせていただきます。居ります。

「いかに生きるか迷うとき、どうするか。

わたしは己自身と向き合う。正直にわが心に問う。答えをくれる羅針盤はわが心のなかにあると経験的に知っているから。精一杯生きてきた時間、人との出会いと読書がもたらした知恵、人間肯定が一つにとけあい、わたしの心のなかにある。いまの悩みは、会うべき人に会う時間、読みたい本を読みきる時間に果てが見えてきたこと-----。」  
 私達NPO主催・初夏のバスツアー、秋の土曜フォーラム…。ご参加いただく皆様との限られた一時をますます大切に致したいものと願っております。

平成28年5月20日

NPO 法人 美術教育支援協会  
 事務局長 梶島紘一